

# モモせん孔細菌病春季防除情報

令和3年3月4日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

薬剤散布と耕種的防除を組み合わせることで防除を徹底しましょう！

## 1 本病の発生状況

昨年9月下旬に行った巡回調査（18ほ場）において、本病の発病葉率は21.7%（平年24.2%、前年46.2%）で過去10年と比較して6番目の平年並の状況でした（図1）。しかし、近年、本病の発生量が増加傾向であり、ほ場における本病原菌密度が高まっていることが予想されます。

## 2 防除対策

- 菌密度を低下させるため、表を参考にして春季防除を実施しましょう。スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。
- 枝に形成された春型枝病斑（図2、3）が最も重要な伝染源です。この春型枝病斑の出現が疑われる1年枝（発芽が悪い、葉が短い、枝が変色しているなど）を摘蕾から予備摘果時期に切除することで伝染源を取り除きましょう。詳細は「モモせん孔細菌病に対する豊橋式枝病斑早期切除技術」を参考にしてください。（<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/320268.pdf>）  
また、春型枝病斑は、開花期頃に発生し、落花期には目立つようになるので、ほ場内を定期的によく見回り、枝病斑は見つけ次第、必ず除去しましょう。
- 本病は風を伴う降雨により急速に拡大します。防風ネットの設置、補修を行うなど防風対策を実施しましょう。
- 本病は薬剤散布のみで抑えることは困難です。各種マニュアル（次ページ）も参考にしながら、耕種的防除も組み合わせることで各ほ場内の菌密度を低下させましょう。

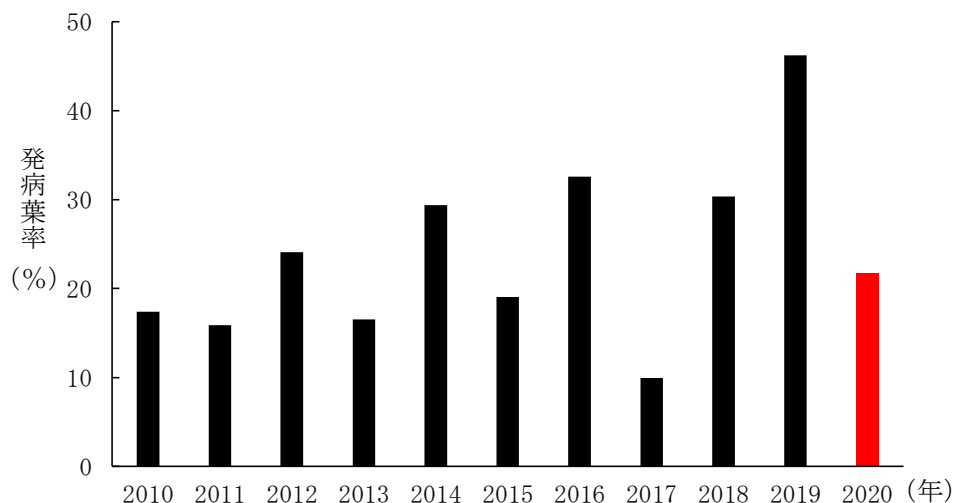


図1 9月下旬調査におけるモモせん孔細菌病の発病葉率推移

表 モモせん孔細菌病に対して開花前に使用する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	成分	FRACコード
カスミンボルドー／ カッパーシン水和剤	開花前まで	500倍	3回以内	カスガマイシン、銅	24、M1
コサイド3000	開花前まで	1000倍	-	銅	M1
ICボルドー412	- (※)	30～50倍	-	銅	M1
ムッシュボルドーDF	開花前まで	500倍	-	銅	M1
チオノックフロアブル／ トレノックフロアブル	収穫7日前まで	500倍	5回以内	チウラム	M3

※薬害を生じる恐れがあるので、開花後以降は使用しない。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、[https://www.jpca.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism\\_frac.pdf](https://www.jpca.or.jp/labo/pdf/2020/mechanism_frac.pdf)を参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。



図2 枝病斑（枝が変色）



図3 枝病斑（芽が枯死し、周囲に亀裂）

### 3 参考

- (1) 多目的防災網を活用したモモせん孔細菌病に強い栽培技術  
[http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/brain/h27kakushin/chiiki\\_2019\\_result-c063-03.pdf](http://www.naro.affrc.go.jp/laboratory/brain/h27kakushin/chiiki_2019_result-c063-03.pdf)
- (2) モモせん孔細菌病防除マニュアル（福島県）  
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/266968.pdf>
- (3) モモせん孔細菌病の防除対策マニュアル（和歌山県）  
[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/kakimomo/kakimomo/seika/seika\\_d/fil/momosenkou.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/kakimomo/kakimomo/seika/seika_d/fil/momosenkou.pdf)